

所属機関名：山梨大学

5-1 河合 大 (教学支援部図書課資料情報グループ)

5-2 北原 夕里歌 (教学支援部図書課情報サービスグループ)

5-3 富士 美江子 (教学支援部図書課医学情報グループ)

1. 発表資料の状況設定

山梨大学教育人間科学部が毎月開催している教授会に出向き、開始前の 10 分間程、時間を借りて、機関リポジトリについて説明し、今年度設置予定の山梨大学学術リポジトリ (仮称) への教育・研究成果 (学術雑誌掲載論文等) の登録の協力・依頼を行う。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研究発表との改訂部分

(1) 発表内容抄録

山梨大学学術機関リポジトリとは、山梨大学で生産された様々な学術成果物を収集・保管・発信するインターネット上の公開書庫であり、今後図書館を中心に構築を考えている。

大学等によるリポジトリの公開は世界的な流れであり、日本でも既に試験公開を含めて 68 の機関で公開している。また、リポジトリは第 3 期科学技術基本計画にも書かれている通り、政府の指針とも言える。

リポジトリをこれから公開した場合のメリットとして、研究者に対しては、研究成果のアピールが向上すること、教育研究成果の永続的保存が可能なこと、研究・教育成果の共有が可能であることなどが挙げられる。また大学に対しては、社会に対する説明責任を果たすことができること、学術情報の一元管理が可能であること、また大学ブランド力の向上などが考えられる。

リポジトリ公開のため、研究成果物の提供をお願いしたい。

(2) 講師からの助言

- ・「論文の提供」という部分が、「論文をリポジトリに投稿する」という意味にとれる。
- ・「政府の指針だから」という話の持っていく方は教員に反感を生む可能性があるので入れない方がよい。それよりも、特に文系の場合は「先生の研究を後世に残したい」という表現の方がよいのではないか。
- ・一元管理されるのを嫌う人もいるので表現を変えたほうがよいのではないか。
- ・「同じ論文を 2 箇所提出する」という印象を受ける。

(3) 研究発表との改訂部分

- ・ p.2 : 文中の「論文」という記述を取り、下部に教育成果物の例を列記
- ・ p.6 : 「第 3 期科学技術基本計画」のページを削除

- ・p.7：大学側のメリットから「学術情報の一元管理」の項目を削除

3. リハプレゼンの概要

日時：平成19年9月13日(木) 13時30分～

場所：附属図書館会議室および医学分館会議室でテレビ会議

発表者：河合大

発表対象：附属図書館本館および医学分館職員

参加人数：16名（本館11名，医学分館5名）

4. リハプレゼンの反響

(1) プレゼンへの意見

- ・図書館の方で責任を持って著作権を確認して掲載をするということがはっきりわかるようにしたほうが良い。
- ・著作権について具体例をあげて説明した方がよい。
- ・リポジトリの先行例を具体的に見せて説明した方がよい。
- ・業績DBがあるので、余計な仕事が増えるという印象を持つ人が多いだろう。ここに挙げられているメリットでは弱い。「負担が多くてもやらなくてはならない」という感じにもっていかないと、なかなか提供されないのではないかと。ある程度強制しないと、実行性があがらない。
- ・パワーポイントのスライドのアニメは必要かどうか。
- ・既にほとんどの国立大学法人で導入済みであるといっているが、図書館の怠慢のような印象を与えるのではないかと。
- ・実際にプレゼンに行く際には、声の良く通る人を選び、話し方に工夫が必要だ。
- ・出版者の許諾条件一覧を資料として配布した方がよいと思う。調べるのは大変かもしれないが、所属する研究者の論文が良く掲載されている出版者の許諾条件を調べて一覧にできれば、関心をもたれるのではないかと。
- ・教授会などで質問が出にくいならば、質問が出るのを待つのではなく、FAQを配布する必要があるそう。

(2) リポジトリの取り組み・運用等への意見・質問

- ・提供する論文はこれから発表するものなのか。
- ・学長など、トップとの連携をぜひ取ってほしい。
- ・山梨大学に転任する以前に発表した論文でも公開してよいのか。また、山梨大学から転出する先生のものも、全てチェックして本学のリポジトリに残すかどうかそれぞれ確認しなくてはならないのか。
- ・ホームページなどにQ&Aを作成した方がよい。

5. その他（今後の予定等）

10月より図書課内にWGを立ち上げ、3つのチームに分かれて来年度の公開に向けて検討を始めている。

以上